

平成 22 年 5 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19320085

研究課題名（和文） 早期英語教育指導者の養成と研修に関する総合的研究

研究課題名（英文） A study of English language teacher education for young learners in Japan: Developing new strategies

研究代表者

小林 美代子（KOBAYASHI MIYOKO）

熊本大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：00364927

研究成果の概要（和文）：指導者に求められる英語力に焦点を絞ったアンケート調査を実施し、千葉県、熊本県、愛知県の公立小学校の教員総計 418 名の意識を探った。回答の分析から、指導に求められる英語力のレベルの査定には、指導の目的、自身の英語力の査定、望まれる指導形態等が関与していることが判明した。また『英語ノート指導資料』中の指導者言の分析を行い、『英語ノート』を使用して英語活動を実施する際に想定されている英語の特徴を抽出した。

研究成果の概要（英文）： We conducted a questionnaire survey focusing on the teachers own perceptions of their training needs. The survey involved 418 teachers in state primary schools across Japan. The teachers were asked to identify the levels of English ability required to meet their needs in the classroom. The factors influencing their responses included: their self-perceptions of their own English proficiency levels; different views of the objectives of English Language Teaching at primary school; and variations in the mode of delivering the teaching. In addition the teachers manuals for *Eigo Note* have been closely analyzed to identify their linguistic characteristics.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
2008 年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2009 年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
年度			
年度			
総計	13,600,000	4,080,000	17,680,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：英語教育、早期英語教育、小学校英語活動、指導者養成・研修、英語運用能力、カリキュラム開発、言語能力評価、指導者資格認定

1. 研究開始当初の背景

2002年4月から、「国際理解教育」の一環としての「外国語会話等」という位置づけで、日本の多くの公立小学校で英語教育への取り組みが始まった。また、2006年3月には、中央教育審議会の答申が、全国のすべての公立小学校において英語を高学年で正課として導入することを提言した。しかし、指導者の養成・研修については、その目標もカリキュラムについても明確な指針は示されておらず、各地方自治体、各学校に一任されているのが現状である。早期英語教育の成否の鍵を握るのは、よい指導者を確保することと言っても過言ではない。早期英語教育指導者に必要な資質についての共通理解の確立、指導者養成・研修プログラムの整備は焦眉の急である。

2. 研究の目的

本研究は、平成16年度より科学研究費補助金（基盤研究（B）（2）課題番号16320075）を受けて実施してきた研究プロジェクト『早期英語教育の指導者養成及び研修の実態と将来像に関する総合的研究』（研究代表者：小林美代子）において確立した基盤の上に、実践への発展として、以下の指針に従い研究を進める。

- (1) 早期英語教育指導者に望まれる英語運用能力及び英語活動における具体的な英語使用場面を特定し、指導者養成・研修プログラムへの示唆を探る。
- (2) 早期英語教育指導者養成プログラム開発のための枠組みを構築する。
- (3) 上記の枠組みを基に、早期英語教育指導者養成プログラムの試行版を開発し、小規模な試行を実施する。

3. 研究の方法

(1) 理論的枠組みの構築・確認

定期的に研究会議を設け、早期英語教育指導者に求められる資質について、理論的枠組みの確認のため、言語理論・言語習得理論・言語教育理論・教材開発理論・評価論等の関連諸分野について、内外の学術論文等の文献を収集し、分析考察した。また、学会や研究会にも積極的に参加し、情報収集に努めた。

(2) 小学校教員への意識調査実施

指導者に求められる英語運用能力に焦点を絞ったアンケート調査を実施し、千葉県、熊本県、愛知県の公立小学校の教員総計418名から回答を得た。

(3) 『英語ノート指導資料』指導者言の分析

指導者に求められる英語運用力についての示唆を得るため、『英語ノート指導資料』中の指導者言の言語的特徴を分析した。

(4) 指導者研修

上記(1)の理論的枠組みに基づき構築した早期英語教育指導者養成プログラムの理念を、要請に応じて、半日セミナー、1日セミナー、一週間セミナー等で実践し、研修参加者のフィードバックを考察した。

4. 研究成果

(1) アンケート調査の結果

英語活動実施のために必要と思われる英語運用能力レベル

- 想定される主な英語使用場面は「歌やチャンツを歌う」「外国人指導助手（ALT）との挨拶」「ALTと授業の打合せをする」などであった。
- 「語彙力」「読むこと」「書くこと」「聞くこと・話すこと」の4つのいずれの観点についても、チーム・ティーチングの場合より単独指導の場合の方がやや高い英語運用力が必要であると捉えられていたが、いずれの場合も、必要とされる英語力はCEFRレベルに換算してA2相当（初級レベル）であった。現在の英語力に対する教員たちの自己評価の平均値は、4つの観点いずれにおいても、指導に必要と思われるレベルよりやや低く、CEFRレベルのA1とA2の中間（入門レベル）であった。

諸要因についての指導者の意識と指導に望まれる英語運用能力レベル査定との関係

- 「英語が好きか嫌いか」ということと「指導に望まれる運用能力の査定」との間には特に関係はなかった。
- 小学校英語活動の目的について、指導に望まれる英語運用能力レベルを高く査定したグループ（上位群）と低く査定したグループ（下位群）との間に大きな差はなかった。

たが、上位群は英語のスキル習得、下位群は言葉や文化への関心を促す意識喚起及びコミュニケーション能力の基礎作りを目標とする傾向が見られた。

- 上位群は外国人指導助手（ALT）が関わるチーム・ティーチングを理想的な指導形態とする割合が高く、下位群では、担任単独と日本人指導助手（JTE）とのチーム・ティーチングを理想的とする割合が高くなっていった。
- 具体的な英語使用場面についての意識は、単独指導の場合は、下位群と上位群の間で、ほとんど目立った違いは見られなかったのに対し、チーム・ティーチングの場合は、上位群の回答者は、ALT とのやりとりに関わる項目をより高い割合で選んでいた。
- 下位群は、現在の自己の運用能力を比較的 low に評価し、逆に上位群は、自己の運用能力を比較的高く評価していた。

英語運用能力向上のための研修に関する希望

- 回答者の 75%以上が研修参加を希望しており、研修に対する積極性が窺われた。
- 子どもたちに教えるために必要な英語力の習得が重要であると評価し、実際の教室で活かせる英語運用力を求めている。
- 研修で伸ばしたい分野は、「聞くこと・話すこと」が圧倒的に多く、続いて「発音」であった。

(2) 『英語ノート指導資料』指導者言の言語的分析の結果

発話の言語形式

「指導者の表現例」の大多数が単文であった。語や句のレベルの発話はほとんどなく、重文や複文がかなり含まれていた。それに対して、「授業案で想定される担任の発話例」では、単文の比率は少し下がり（68.4%）、語や句のレベルでのやりとりが多くなっていった。平均発話長は指導者の表現例では 5.75 語であったのに対し、授業案では 4.52 語と短くなっていった。平均発話長から想定される習熟度レベルはいずれも初級後半となっていた。

語彙レベル

70%以上が高頻度語で、学年間で共通する語も多かった。授業案では、成人の語彙レベルでは低頻度であるが、児童の興味に沿う特有のものが 10%程度含まれていた。

文の種類

「指導者の表現例」の過半数は命令文だった（表現例全体の 55.4%）。「授業案」では、命令文の割合が少なく（27.9%）、平

叙文が多かった（40.3%）。授業案中の発話の 36.0%は、児童への情報提供に関する談話行為であり、この談話行為は、平叙文で実現されることが多いためと考えられる。また、5年生と6年生では、命令文と平叙文の比率が異なり、5年生では行動を促す活動、6年生では発話を促す活動の比率が高く、英語活動の質が異なることが示唆された。

談話分析の結果

教師の発話の 63.3%が「児童に対する説明」「発話を求める」「行動させる」など、状況に応じて調整する必要のある開放的な発話で、定型の例文を覚えるだけでは対応が難しいことが示唆された。さらに、開放的な発話は、言語形式に限りがある閉鎖的な発話に比べ、平均発話長も長くなる傾向があり、初級後半程度に相当することが確認された。また児童の応答に対するフィードバックにあたる発話が非常に少ないことも確認された。

まとめ

小学校英語活動に必要なとされる発話は、言語形式、語彙レベル、平均発話長といった観点からは、それほど困難なものではないと言えるかもしれないが、教室談話の観点からは、開放的な発話が 60%以上を占め、英語活動を実施していくためには、事前に決まった表現例を用意するだけでは十分ではないことが示唆された。また、学年によって英語活動の質が異なることも示唆された。

(3)指導者研修

千葉県、熊本県、東京都、広島県他において、要請に応じて、指導者研修を実施した。研修の実施期間は、半日程度の講演・指導助言から 1週間程度の研修プログラムまで多岐に亘ったが、明確な目標に基づく質の高い研修が強く求められていることを認識した。平成 22 年 2 月には、プリティッシュ・カウンシルと共催で、文部科学省、熊本県教育委員会他の多くの団体の後援を得て、「小学校英語特別セミナー」とともに築こう！豊かな小学校英語」と題する一日セミナーを開催し、間近に迫った小学校英語活動実施に向けて、多くの教育実践者、研究者とともに考える機会を提供した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 31 件）

小林美代子、子どもの英語力を測る：語彙テスト開発の試み、『Scientific

Approaches to Language (神田外語大学・言語科学研究センター紀要)』査読無、9号、2010、pp.257-276.

小林美代子・宮本弦・森谷浩士、指導者に望まれる英語運用能力と研修 公立小学校教員を対象とする意識調査の結果より、小林美代子(編)『「早期英語教育指導者の養成と研修に関する総合的研究」科学研究費(基盤研究(B)平成21年度研究成果報告書)』査読無、2010、pp.3-25.

小林美代子、これからの小学校教員養成はどう変わるか『英語教育』(大修館)査読有、58巻12号、2010、pp.34-35.

小林美代子・森谷浩士、小学校英語活動指導に必要な英語力とは?『小学校英語教育学会紀要』査読有、10号、2010、pp.19-24.

田中真紀子、Kanda University Pre-service Teacher Training Program for Teaching English to Children: Curriculum Design and Evaluation、『言語教育研究(神田外語大学言語教育研究所紀要)』査読無、21号、2010、pp.289-305.

田中真紀子、小学校英語教育における「英語支配」と「英語母語話者信仰」、『神田外語大学紀要』査読無、22号、2010、pp.1-29.

宮本弦・小林美代子、早期英語指導者に望まれる英語運用能力を探る 指導者意識調査のコメント分析、『日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要』査読有、28号、2009、pp.105-122.

小林美代子・宮本弦・森谷浩士、指導者に望まれる英語運用能力と研修 - 公立小学校教員を対象とする意識調査の結果より -、小林美代子(編)『「早期英語教育指導者の養成と研修に関する総合的研究」科学研究費(基盤研究(B)平成20年度研究成果報告書)』査読無、2009、pp.3-55.

宮本弦、小学校指導者のための英語練習チャンツ集を利用した研修試案、『*Scientific Approaches to Language* (神田外語大学・言語科学研究センター紀要)』査読無、8号、2009、pp.147-173.

田中真紀子、カリフォルニア州ロサンゼルス統一学区における英語教育の試みと日本の小学校英語教育への示唆『神田外語大学紀要』査読無、21号、2009、pp.1-18.

小林美代子・宮本弦、小学校英語指導者の養成と研修をめぐる課題:民間指導者及び小学校教員を対象とする意識調査より、『日本児童英語教育学会(JASTEC)紀要』査読有、27号、2008、pp.97-116.

小林美代子、小学校教員に期待される英語力を考える『言語科学研究(神田外語大学大学院言語科学研究科紀要)』査読無、14号、2008、pp.7-26.

小林美代子・宮本弦、公立小学校における英語指導の課題と研修、『*Scientific Approaches to Language* (神田外語大学・言語科学研究センター紀要)』査読無、7号、2008、pp.209-240.

宮本弦・小林美代子、早期英語教育指導者に望まれる英語運用能力 民間指導者及び小学校教員を対象とする意識調査コメント分析、小林美代子(編)『「早期英語教育指導者の養成と研修に関する総合的研究」科学研究費(基盤研究(B)平成19年度研究成果報告書)』査読無、2008、pp.19-52.

町田なほみ・小林美代子・長谷川信子、早期英語教育のための語彙リスト開発過程、『*Scientific Approaches to Language* (神田外語大学・言語科学研究センター紀要)』査読無、7号、2008、pp.241-268.

[学会発表](計61件)

Kobayashi, M. & Moritani, H. Can we teach? Linguistic analysis of Eigo Note- The 35th JALT (Japan Association for Language Teaching) International Conference. 2009年11月22日、グランシップ静岡.

Miyamoto, M., Kobayashi, M. & Moritani, H. A survey on English levels needed for EYL teachers. The 35th JALT (Japan Association for Language Teaching) International Conference. 2009年11月22日、グランシップ静岡.
田中真紀子「児童英語教員養成課程:神田外語大学の試み」日本児童英語教育学会第29回秋季大会. 2009年10月25日、昭和女子大学.

Tanaka, M. How do students perceptions about their English Teachers (NS, NNS) influence their classroom interaction with their teachers? The 2009 Asia TEFL International Conference: Collaboration and Creativity in English Language Teaching and Learning. 2009年8月8日、タイ・バンコク.

小林美代子・森谷浩士「小学校英語活動指導に必要な英語力とは?」小学校英語教育学会第9回全国大会. 2009年7月19日、東京学芸大学.

宮本弦・小林美代子・森谷浩士「指導に望まれる英語運用能力に関する小学校

教員の意識」小学校英語教育学会第9回全国大会。2009年7月19日、東京学芸大学。

Tanaka, M. A Model of mid-Term conference that promotes pre-service students overall teaching. The 6th Language Teacher Education Conference: Preparing Language Teachers for the 21st Century. 2009年5月30日、アメリカ・ワシントンD.C.

Tanaka, M. Critical functions of L1 in learning L2. The 8th KATE (Korea Association of Teachers of English) Joint SIG Conference. 2009年2月7日、韓国・光州市。

Mori, M. & Kobayashi, M. Listen and repeat! Can you do that? The 34th JALT (Japan Association for Language Teaching) International Conference. 2008年11月2日、国立オリンピック記念青少年総合センター。

Tanaka, M. Training program for teaching English to children. The 34th JALT (Japan Association for Language Teaching) International Conference. 2008年11月2日、国立オリンピック記念青少年総合センター。

Miyamoto, Y. & Kobayashi, M. What level of English do teachers think they need? The 34th JALT (Japan Association for Language Teaching) International Conference. 2008年11月1日、国立オリンピック記念青少年総合センター。

Tanaka, M. Is "English only" instruction more favorable in elementary schools? The 16th Korea TESOL International Conference. 2008年10月25日、韓国・ソウル市。

小林美代子・長谷川信子・町田なほみ「子どもの英語能力を測る：語彙テスト開発の試み」日本言語テスト学会 (JLTA) 第12回全国研究大会。2008年9月14日、常磐大学。

Kobayashi, M. & Miyamoto, Y. Teacher education for young learners of English in Japan: Findings of a three-year research project. The 15th World Congress of Applied Linguistics (AILA). 2008年8月28日、ドイツ・エッセン市。

Kobayashi, M., Hasegawa, N. & Machida, N. Assessment of young Japanese learners of English: What works best? The 30th Language Testing Research Colloquium. 2008年6月27日、中国・杭州市。

Tanaka, M. Teacher-students interactions in collaborative EFL teaching: Three heads are better than one! The 25th International Conference of English Teaching and Learning in R.O.C. & 2008 International Conference on English Instruction and Assessment. 2008年5月3日、台湾・嘉義市。

長谷川信子・小林美代子・町田なほみ「子ども用語彙テスト開発の試み」JACET (大学英語教育学会) 第2回英語辞書・英語語彙合同研究会。2008年3月22日、麗澤大学。

Tanaka, M. Cooperative teacher planning sessions strengthen elementary school English instruction. 2008 AERA (American Educational Research Association) Annual Meeting. 2008年3月26日、アメリカ・ニューヨーク。

Kobayashi, M. & Miyamoto, Y. Issues in EYL teacher education. The 33rd JALT (Japan Association for Language Teaching) International Conference. 2007年11月23日、国立オリンピック記念青少年総合センター。

小林美代子・宮本弦「早期英語教育指導者の養成と研修をめぐる課題 - 民間指導者及び小学校教員の意識調査より - 」第46回JACET (大学英語教育学会) 全国大会。2007年9月7日、安田女子大学。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 美代子 (KOBAYASHI MIYOKO)
熊本大学・大学院社会文化科学研究科・教授
研究者番号：00364927

(2) 研究分担者

宮本 弦 (MIYAMOTO YUZURU)
神田外語大学・児童英語教育研究センター・専任講師
研究者番号：10448920

田中 真紀子 (TANAKA MAKIKO)
神田外語大学・英米語学科・准教授
研究者番号：40236633

(3) 連携研究者

長谷川信子 (HASEGAWA NOBUKO)
神田外語大学・大学院言語科学研究科・教授
研究者番号：20208490

(H19-20:研究分担者)

堀場裕紀江 (HORIBA YUKIE)
神田外語大学・大学院言語科学研究科・教授
研究者番号：40316831
(H19-20:研究分担者)

(4)研究協力者

森谷 浩士 (MORITANI HIROSHI)
神田外語大学・言語科学研究センター・研究員
研究者番号：80524173
(H19 H21.9月:研究分担者)